

甲北信越矯正歯科学会雑誌投稿の手引き

【投稿規定】

1. 本会誌は甲北信越矯正歯科学会の機関誌(略誌名: 甲北信越矯歯誌)である。年1回、6月に発行する。歯科矯正学に関する原著、臨床、考案、症例報告、調査・統計、総説、大会抄録、会報、その他を掲載する。ただし、総説は編集委員会から投稿を依頼されたものに限り、本誌への投稿は第1、第2著者は本学会員に限り、学会事務局宛に理由書が送付され、編集委員会が認めた場合は第3者以降2名までの非会員を著者とできる。
2. 投稿論文は他誌に未発表のものに限り、
3. 論文は和文で、平仮名、常用漢字、現代仮名遣いを用い「である」調で記述し、出来るだけ簡潔に記述されたものとする。表題、キーワード、抄録、本文、表、図(写真)および文献で構成する。
4. 原稿および添付ファイルの書式、形式は「投稿の手続き」に従う。
5. 原稿末尾(文献の後)に連絡先として氏名、所属機関、住所、電子メールアドレスおよび別刷りの希望部数を付記する。
6. 投稿原稿は内容、体裁が整い、ただちに印刷出来るものでなければならない。論文受理後の内容の修正、変更は許されない。
7. 論文には別に、論文種別(原著、臨床、考案、症例報告、調査・統計、総説、その他の別)、同意書の有無、論文表題、著者名、原稿総枚数、表枚数、図枚数、別刷り希望数、連絡先(氏名、住所、電話番号、電子メールアドレス)を記入した投稿票(本誌綴込みのもの)および、投稿原稿(図、表を含む)の電子ファイルを添える。
8. 上記投稿規定に当てはまらないものは受け付けない。投稿論文には編集委員会より受付証が出される。
9. 投稿論文の内容については編集委員会で査読および審議し、その採否を決定する。受理論文には編集委員会より受理票が出される。編集委員会から投稿を依頼された論文の査読は編集委員長が行うこととする。
10. 論文掲載料について、刷り上がり5ページまでは学会負担とする。別刷りの作製(別刷り代のうち10,000円分を学会負担とする)および、カラー印刷などの「投稿の手続き」に定める諸費用ならびに発送費用は著者負担とする。掲載号発刊後に著者宛に請求するので、所定の期日までに納入されたい。編集委員会から投稿を依頼された論文については論文の掲載料は全て学会負担とし、別刷50部を贈呈する。
11. 本誌に掲載された論文の著作権(著作権財産権、copyright)は、本学会に帰属する。ただし論文の内容については著者が責任を負う。
12. 投稿論文は、ヒトを対象とする場合はヘルシンキ宣言を遵守し、その精神に基づいて「倫理的に行われたこと」、かつ「患者あるいは研究参加者との間にインフォームドコンセントがかわされたこと」の明記を必要とする。症例報告以外の論文は、大学等所属機関あるいは日本矯正歯科学会の倫理審査委員会などで承認を得て、その旨を明記すること(承認番号を記載する)。また、動物実験は「動物実験に関する所属研究機関の指針」に基づいて倫理的に行われた旨の明記を必要とする。
13. 雑誌掲載に対する患者の同意書が必要な論文(症例報告)の場合には、「患者様の資料に関する同意書」に必要事項を記入の上、その原本を原稿送付の際に添付すること。
14. 論文種別にかかわらず利益相反の有無について、論文末尾の「文献」の前に以下の記載例にならって記載し開示すること。

記載例:

- ① 本論文に関して、開示すべき利益相反状態はない。
- ② 本研究は〇〇会社から研究資金提供を受けた。
- ③ 〇〇の検討にあたっては、〇〇会社から測定装置の提供を受けた。
- ④ 〇〇講座は本研究の研究費として××会社から資金提供を受けた。」
- ⑤ 〇〇講座は本研究で用いた〇〇を販売している××会社から研究資金提供を受けた。
- ⑥ 本研究に関し、〇〇会社から労働力の提供を受けた。

附 則

1. 本規定は、平成8年11月21日より効力を発する。
2. 本規定は、平成12年11月16日に改正され、同日より効力を発する。
3. 本規定は、平成15年11月20日に改正され、同日より効力を発する。
4. 本規定は、平成21年11月29日に改正され、同日より効力を発する。
5. 本規定は、平成22年6月9日に改正され、同日より効力を発する。
6. 本規定は、平成23年6月5日に改正され、同日より効力を発する。

7. 本規定は、平成23年6月17日に改正され、同日より効力を発する。
8. 本規定は、平成29年3月16日に改正され、同日より効力を発する。
9. 本規定は、令和2年7月12日に改正され、同日より効力を発する。

【投稿の手続き】

1. 原稿一式の送付先は甲北信越矯正歯科学会 事務局 宛とする。
また、投稿や受付状況等に関する問い合わせも事務局へすること。編集委員長への直接の照会を受け付けないものとする。
〒951-8141
新潟市中央区関新1-2471
有限会社東京プリント社
(Tel: 050-3536-3494, Fax: 025-265-4858 E-mail: kos@tprix.co.jp) [2025年4月より変更]
2. 原稿ファイル送付の際に本誌所定の投稿票(本誌綴込みのもの)に必要な事項を記入の上、原稿にコピー7部を添付する。投稿票記載のチェック項目を確認すること。
3. 原稿送付の際に、雑誌掲載に対する患者の同意書が必要な論文(症例報告)の場合には、必要事項を記入の上、その原本を添付すること。
4. 原稿は表紙、抄録、本文、文献、脚注、表、図の順に一括して左端をとじる。投稿票はとじない。ページ番号は表紙を第1ページとし、脚注まで通し番号をつける。
5. 原稿は、パーソナルコンピュータ、ワードプロセッサを使用し、A4判用紙に40字×20行の800字で印字する。
6. 文字および表はMS-Officeに互換性のある形式で、また図はJPEG, TIFF等の汎用形式でCD等に記録して本文に添付する。
7. 投稿に当たって原稿(表、図を含む)の控を手元に保存しておくこと。症例報告においては、編集委員会の審議資料としてオリジナルレントゲンフィルムもしくはそのコピー(フィルムもしくは電子ファイル)の提出を求められる場合があるので、要請があった場合に速やかに提出できるよう準備しておくこと。
8. 事務局より転送された原稿が編集委員長のもとに到着した日付をもって受付日とし、著者に受付証を送付する。投稿規定に当てはまらないものについては、修正を求め、それが完了してから受け付ける。
9. 投稿の締め切りは12月31日とし、それまでに受け付けた投稿論文について編集委員会で審議し、採否を決定する。受理論文には著者に受理票を発行する。
10. 著者のうち全ての本学会会員は、投稿論文の発行時まで、論文受理年度までの年会費および発行年度の学会年会費を納入していること。

【表 紙】

1. 原稿に表紙を付け、その上段に論文表題(副題は行をかえる)、著者名、キーワード、ランニングタイトル(欄外タイトル、40字以内)、受付年月日(日付空欄)を書き、下段に論文表題の英訳、著者名のローマ字表記(姓を大文字にして名の後に付ける)を記載する。
2. 所属(必要があれば指導者名)は脚注として別紙に記載する。著者所属機関名は大学の講座、部門、教室、研究所、および病院、医院の公式名とする。共著の場合、その所属機関を区別したいときは、第1著者と所属を異にする共著者名の右肩に*印(asterisk)や1, 2...などの数字を著者名の右肩に付ける。
3. キーワードは日本語(もしくは英語)で5語(5 words)以内とする。
4. ランニングタイトルは本誌奇数ページ欄外に印刷されるもので、表題が40字を超える場合は、40字以内に簡略化したものを和文で記載する。

【抄 録】

1. 本文の前に650字以内の和文抄録をつける。句読点、コンマ、ピリオド、括弧は1字とする。
2. 抄録の内容は、論文の概要が理解できるよう、研究の目的、方法、結果および結論の主なものを簡潔に要約する。

【本 文】

1. 本文はページを改めて書き下ろす。学術用語はそれぞれの学会学術用語委員会選定のものを用い、和訳しにくい用語以外は日本語で表記する。欧語はすべて原綴りとする。
2. 原著の場合、本文は「緒言」、「材料と方法」、「成績または結果」、「考察」、「結論または総括」などの見出しを付けて論文内容をできるだけ簡潔に記述する。それぞれの見出し(ゴシック体を用いる)は各章の冒頭、行間中央に記載する。

3. 原著論文のそれぞれの項目の内容はおおよそ次のようなものとする。

1) 緒言

研究の目的、それを取り上げた動機およびその背景となるこれまでの研究との関連を記述する。

2) 材料と方法

実験または観察に使用した材料および方法について記述する。とくに新しい方法について考案があれば、理解しやすいように説明することが望ましい。材料、方法についての考察はここでは記述しない。

3) 成績または結果

表、図(写真)、等を活用し、実験または観察で得られた結果の主な要点を記述する。結果についての考察はここでは記述しない。

4) 考察

前章までに示されたものについての客観性を立証し、この研究で見出された事柄のもつ意義(意見)を記述する。さらに、他の関連論文で示された結果を比較考察して、その評価を行う。

5) 結論または総括

この実験または観察で得られた事柄を総括して箇条書きで記述する。抄録ですべて記述される場合は、本章は省略する。

4. 症例報告については、「投稿の手続き」末尾の【フォーマットによる症例報告】による形式でもよい。

5. 謝辞、学会発表、研究費出所など特記事項があれば、本文の後に付記する。

6. 節、小節などの書き出しは記載例○のごとくにし、その見出し、小見出しの区分記号は大体Ⅰ. Ⅱ. Ⅲ. . . . , 1. 2. 3. . . . , 1)2)3) , (1)(2)(3) , あるいはA. B. C. . . . , a, b, c. . . . , a)b)c) , (a)(b)(c) , の順によるが、必要に応じて両者を組み合わせても差支えない。なお、編、項、節などの見出し語は用いない。

7. 欧語は人名、固有名詞、略語とくに慣用されているものは大文字ではじめる。また、普通名詞は文頭にあるときは大文字ではじめるが、文中では大文字は使用しない。

8. 数字は半角を用いるのが望ましい。「第1、第一」、「2次、二次」などはアラビア数字、漢数字のどちらを用いてもよいが、菌種を示す場合は「第一小白菌、第二小白菌」は漢数字を用いる。

9. 動植物の名称は原則としてカタカナ書きにする。生物の学名欧語は2名式命名法によりイタリック体(アンダーラインを引く)で記し、たびたび使用する場合は再出以後属名を略字とし、例えばMicrococcus tetragenus をM. tetragenus としても差支えない。

10. 化学物名は日本化学会の定めた化学物名日本語表記の原則に準拠して一般名で書き、商品名は表記しない。

11. 計量単位は「国際単位系(SI)の単位記号」(m, Kg, s, A, K, cd, mol)を用い、通常用いられる実用単位(kgw, cal, atm, Hz, Vなど)を用いても良い。温度は摂氏を用いる。単語記号(ローマン体)には省略のピリオドおよび複数のsはつけない。

12. 略語、略号には国際的に慣用されているものを用いる。略号として通常使用されるラテン語は、必要な場合にはピリオドをつけ、イタリック体とする。

13. 本文中に文献を引用するときは、著者の姓(名不要)をあげ、その右肩に文献番号をつける。著者名の明記が不要な場合には、省略して番号だけでよい。

【文 献】

1. 引用文献は和文、欧文の区別なく、引用順にならべて一連番号をつけ本文末にまとめる。本文中の該当箇所にも右肩にアラビア数字で片括弧をつけて示す。

2. 文献の書き方は

雑誌の場合-第1著者□第2著者□第3著者□他□表題□雑誌名(略誌名でよい)「スペース」西暦年□卷□引用ページ(最初のページ-最後のページ)□

単行本の場合-著者名□章題名□単行本全体の編(監)者名□書名□版□発行地□発行所□西暦発行年□引用ページ(最初のページ-最後のページ)□の順とする。

3. 著者名は4名以下の場合には全員、5名以上の場合にははじめの3名までを書き、あとは「他」または「et al.」と省略する。欧文の場合には著者の姓、名前の頭文字の順に書き、共著者があれば最後の著者名の前に接続詞(and, unt, et)などを入れる。この場合(&)は用いない。

4. 和文論文の表題は、原著者の用いた漢字と表記法に従う。

5. 雑誌の略誌名は、日本自然科学学術雑誌総覧(日本医学図書館協会編、学術出版会刊)およびlist of journal indexed in Index Medicus (U.S. Government Printing Office, Washington D.C.)に準拠するが、欧文誌の場合、省略のピリオドはつけない。単行本の書名は略してはならない。

6. 略誌名が不明な場合は全部書き出すこと。とくに境界領域、他専門分野の雑誌を引用するときは、読者が容易にその雑誌を特定できるように雑誌名表記には十分配慮すること。
7. 分担執筆の単行本の場合は、実際に引用する部分の著者名と表題を先に書き、その本の書名、編集者などを後に書く。
8. 叢書の場合は、書名の次に叢書名、巻数を括弧で区切って付記する。
9. 何らかの事情で原著を閲覧できない場合は、実際に引用した文献とともに書き、その旨明記する。この場合、自分の文献表のなかにある論文から引用したときは、単に3)から引用、22)から引用、と記すだけでよい。
10. 原著をみるのができないため、学会発表の抄録を引用する場合は、表題の次に(会)と付記する。
11. まだ公刊されていない論文を引用するときには、著者名、表題、掲載予定雑誌名、その巻数および西暦年を記した後、必ず(掲載予定)あるいは(印刷中)と付記すること。
12. 私信、特定会合で配布された資料など、公刊されておらず一般に閲覧できないものは文献に加えない。

【表および図】

1. 表および図(写真を含む)は、A4判用紙に1枚ずつ作製し、表または図ごとに通し番号(表1、表2、…)(図1、図2、…)をつけて、文献の後にまとめる。写真は図として通算する。
2. 表および図の本文挿入箇所には、それぞれ本文欄外に表および図の番号を朱書きする。配列に関して特に希望がある場合は詳細を記述されたい。
3. 表および図には和文で表題(ゴシック体)または説明文をつける。表題にはピリオドをつけない。表の表題または説明文は表の上に記すが、図の表題または説明文は図の下におく。本文とは別のページに写真などを図版として掲載する場合、その説明文は原稿の最後(付図説明)として一括して掲げる。
4. 計量単位を明記すること。表は組版印刷するので、印刷寸法の指定は必要ない。なお、電子ファイルは画像データではなく、Excel、Word等、テキストが抜き出し可能なデータとすること。表、図の大きさはA4判1ページ以内(横巾16cm、縦長24cmまで)とする。必要があれば、図または写真の印刷寸法を「左右7.8cm」、「左右16cm」というふうに記述する(2段横組の1段の幅は7.8cmである)。
5. 図(グラフ、線画)は白紙ケント紙、トレーシングペーパーまたは薄青色方眼紙に墨か黒インクではっきり描く。座標の数字や単位の記入を忘れないように注意する。電子ファイルについて、原図は600dpi程度の解像度で、JPEG、TIFF等の汎用形式とすること。原図のトレース、数字や文字などの写真植字およびデジタルスキャンを希望するときは、(要トレース)、(要写植)、(要スキャン)と付記(朱書き)する。その実費(版下代)は著者負担とする。
6. 電子ファイルについて、写真は掲載を希望する原寸大で400dpi程度の解像度でJPEG、TIFF形式とし、鮮明なものでなければならない。なお、組写真の場合も1組を1枚として作成するように心がけたい。なお、画像を貼りこんだExcel、Word、PowerPoint等のデータの他に、画像をJPEG、TIFF形式で保存したものを、一つの図につき1フォルダ提出すること。カラー印刷に要する費用は著者負担とする。
7. 症例報告などに用いられる顔写真には「目隠し」を施して、その人物が特定できないように配慮すること。
8. 図、写真は、製版後は部分的な訂正(例えば図中の数字や文字の訂正)ができず、改めて製版し直さなければならないので、原図作製時十分注意されたい。著者の不注意による図版再製作費はその実費を著者に請求する。

【活字指定】

1. 通常著者が活字を指定する必要はない。

【校 正】

1. 校正は初校を著者校正とし、二校以後は編集委員会で行う。校正に当たっては付録「校正記号表」を参考にして、朱書きで行うこと。
2. 初校は原稿と初校刷をあわせて著者に送付する。必ず指定日までに校正を終えて送付された原稿と校正刷を返送すること。校正時の原稿、校正刷の発送および返送は速達書留便とする。
3. 初校時には図、表の本文中の配置換え、活字体の変更にかぎり認める。
4. 校正刷返送の遅延や、大幅な図の改版などがあって、編集業務に支障をきたし本誌発行が遅れるおそれがあるときは、たとえ受理論文としての印刷中であっても編集委員会の判断で掲載を次号回しとすることができる。
5. 投稿者で正誤表の掲載を希望する場合は、次号発行の3か月前までに編集委員会あてに正誤表を送付されたい。

【論文掲載料】

1. 刷り上がり5ページを超える印刷、製図、原図のトレース等の作製、発送に要した費用は掲載号発行後、著者に請求するので所定の期日までに納入されたい。

2. 著者の不注意による図版の再製作および組み替えに対しては、その実費を請求する。

【別刷】

1. 別刷希望部数を投稿票該当箇所に明記されたい。
 2. 別刷の作製、発送に要した費用は全額を著者負担とする。
- 注) 略号、雑誌略名はOrthodontic Waves投稿規約に準拠する。

【フォーマットによる症例報告】

1. 本フォーマットは日本矯正歯科学会などの学術大会において展示発表された症例を本誌に投稿しやすくした規格である。
2. 本文の前に650字前後の和文抄録をつける。
3. 治療前、動的治療終了時、(2年以上経過した) 保定終了時もしくは保定中(1年以上経過したもの)の顔面写真(正貌および側貌の2枚×3)、口腔内写真(正面、上顎下顎の咬合面、左右側側面の5枚×3)、セファロトレースの重ね合わせ(全体、上顎、下顎)と数値を記入した表を必要とする。組み写真の枠と表については学会ホームページ(<http://shinsen.biz/kos/>)に掲載してあるものをダウンロードして使用してもよい。
4. 写真や図表については上記を基本とし、症例の把握のために必要な資料は適宜追加すること。
5. 『』の大項目は必ず記載すること。ただし『緒言』についてはその限りではない。
6. 『』内の※をつけた中項目については必ず記載すること。※以外の中項目については、適宜削除もしくは追加しても構わない。
7. 中項目内の小項目については、あくまで参考とし、適宜削除もしくは追加して症例の特徴が読者に把握ができるよう配慮すること。

[フォーマット]

『タイトル』

※題名(和文):

※題名(英文):

※著者名:

※所属:

『抄録』[650字以内]

『緒言』

『症例の概要』

※初診時年齢: 歳 月 性別:

※主訴:

※現病歴:[主訴にかかわる病歴]

家族歴:

既往歴ならびに全身的特記事項:

※顔貌所見:

正貌:

側貌:

※模型所見:

大臼歯関係: Angle Class 左側() 右側()

Overjet: mm Overbite: mm

Arch length discrepancy: 上顎()mm 下顎()mm

正中線のズレ:

歯列弓の形態:

交叉咬合、鉗状咬合の部位:

模型におけるその他の所見:

※セファロ分析所見:

骨格系の所見:

歯系の所見:

必要あれば軟組織、正貌セファロ所見等:

エックス線写真所見:

歯数の異常，埋伏歯の有無，歯周組織の状態，歯根の状況など
歯および歯周組織の状況：

口腔衛生状況，歯周組織の状態，治療状況など
機能系所見：

咬頭干渉，咬合干渉，早期接触，習癖，口呼吸，顎運動異常など

『診断・治療方針』

※診断：

※抜歯の有無と部位：

※治療方針：

『治療経過・使用装置』

※治療開始時年齢： 歳 か月

※治療終了時年齢： 歳 か月

※動的治療期間： 年 か月

※使用した装置と治療経過：

『保定』 [保定装置の種類，使用状況と使用期間，第三大臼歯への対応など]

『結果』

『考察』

『文献』

『図表』